

高齢期連絡会が調査

75歳以上の医療費は、2倍化され、2ヶ月が過ぎ、中止を求める声があがっています。政府は負担能力のある高齢者に2倍化を求めたといいます。が、日本高齢期運動連絡会による調査の自由記述回答からは、負担能力があるとはいえない実態が浮き彫りになっています。

調査は、2倍化の該当世帯（単身で年収200万円以上、夫婦で同320万円以上）を中心で、昨年12月から今年8月にかけて実施。書面調査で167件の有効回答がありました。

貯金ぐずして

預貯金をぐずしながら生じて、そのための負担に将来への不安を感じる人が多くいます。奈良の女性（79）は「預貯金額の回減りが目立っており、夫婦二人とも複数の病気を抱えており、今後医療費が増えてくると、生活にかなり負担になる」。群馬県の女性（75）は「夫がクルーボードに入所して

います。2倍になったら大変困ります。貯金は「後をとりづかして何年大丈夫かわからないほど苦しくなる」。

回答者の約9割が持を求めたといいます。が、日本高齢期運動連絡会による調査の自由記述回答からは、負担能

力があるとはいえない実態が浮き彫りになっています。

調査は、2倍化の該当世帯（単身で年収200万円以上、夫婦で同320万円以上）を中心で、昨年12月から今年8月にかけて実施。書面調査で167件の有効回答がありま

す。福島の男性（81）は「思わぬ修繕費がかかります。2倍になると安閑としているかもしれません。(今年)窓口負担は10万6千円でした。趣味や小旅行、文化的なものはできにくい状況です」。山口の単身世帯の男性（77）は「食費、文化、教養、娯楽費、交際費を削るしかない」。

調査には過去1年で

切り詰めたことを問う

項目があり、最も多い

回答は「服や靴の購

買」。2番目が「趣味

・レジャーの出費」で

「外食」と続きます。

「医療機関への受診」

は「2倍化は何をもたらすか」として、「受診抑制を引き起こし、結果

として、そのステージ

に至る」(奈良の単身世帯の74歳男性)、「毎月受

診を控えます」(福島の単身世帯の77歳女性)

などと、貯金も底をついて

いるので不安。秋田

の単身世帯の80歳女性

は「腰根の雪下ろし代が

大変です」。必要経費

が重なります。

どこから捻出

回答者の収入は

年金だけ。医療の負担増分をどうから捻出すのか。神奈川の単身世帯の女性（82）は「後と3万円持参しないと支払いができない。他の家計支出を大幅に切り詰めないとやっていかない」

一方で、2倍化で医

療の切り詰めまでせ

れません。(今

年の窓口負担は10万6千円でした)。趣味や小旅行、文化的なものはできにくい状況です。「受診を控えようと思つ」(三重の単身世帯の79歳男性)、「できるだけ医者にかかるな」という

「8番目」とは

すか」として、「受診抑

制を引き起こし、結果

として、そのステージ

に至る」(奈良の単身世帯の74歳男性)、「毎月受

診を控えます」(福島の単身世帯の77歳女性)

と心臓病の治療を受けている夫婦世帯の男性

(81)は「腫瘍」は「せせるのではないか」

書いています。「がん

と深刻な事態を予測

しています。